地域おこしと祭り
—福島わらじまつり—

福島大学　鈴木裕美子

1．はじめに

福島県内には，金沢の羽山ごもり，田島祇園祭，江垂日吉神社の浜下り，釜戸奴子行道，磐梯神社舟引まつりなど，1,500を超える祭りがある。福島わらじまつりは，伝統的な神事と現代的なイヴェントの要素を併せ持つ市民総出の夏祭りである。福島わらじまつりの位置付けと今後の課題について考察した。

2．全国のわらじ祭り

わらじを奉納する神事は全国に存在している。巨人伝説に基づく三重県大王町波切のわらじ祭りや群馬県利根沼田地方の八丁じめ，開山式で登山者の無事を祈る静岡県御殿場市のわらじ祭り，安全な旅・健康・家内安全を祈願する山形県高畠町の大日如来わらじみこしまつり，無病息災を祈る兵庫県日高町と養父町の田ノ口賽の神祭や安井の大草履，魔除けのために掲げる高知県東津野村の堂の口開け祭り，村長鎌田三之助（1863-1950）の遺徳を讃えはじめられた宮城県鹿島台町のわらじ祭りなど，由来や規模はさまざまであるが，過去の履物となってしまったわらじを奉納する祭りや神事として，目的や形式には共通点がみられる。

3．福島わらじまつりの由来

福島わらじまつりは信夫三山暁まいりにちなみ，8月の第1金・土曜日に福島市の目抜き通りで繰り広げられる祭りで，昭和45年に福島市と福島商工会議所が中心となってはじめられた。羽黒神社内の足尾神社に，2月の暁まいりの大わらじ1基と8月のわらじ祭りで奉納されるわらじと併せて常時3基のわらじが奉納される。

市内最大のイヴェントであるわらじまつりは，大わらじを奉納する神事にはじまり，市内の大通りをにぎやかに踊り歩く「わらじ踊り」と「ダンシングそーだナイト」のコンクール，わらじをかついで競争するレースなどが展開される。踊りは大わらじを先頭に，申し込んだ団体が思い思いの衣装で繰り出し，延々と踊り流す。沿道には25万人の見物客が訪れる。

わらじは旅や足の象徴で，「足尾権現」に旅の無事や健脚を願い，さらに五穀豊穣，家内安全，身体強健，商売繁昌，招福除厄，縁結びなどを祈願する。

4．信夫三山暁まいり

信夫三山とは，月山，湯殿山，羽黒山をさし，信仰の場として室町時代からの歴史があり，中世には修験道の根本道場として数多くの実績をおさめた。

暁まいりは，信達平野の中央，福島市御山に位置する信夫山に鎮座する羽黒神社の例祭で，毎年旧正月14日（2月）に長さ12m，幅1.4m，重さ2tの大わらじを約100人で担ぎ上げ，福島駅前など市内目抜き通りを練り歩いた後，信夫山の羽黒神社へ奉納する神事である。

昔，羽黒神社の仁王門（明治初めに廃仏毀釈で取り壊し）の仁王の足のサイズに合わせてわらじを作って奉納したことが由来とされ，江戸時代から300有余年にわたり受け継がれている。昭和8年にイギリスに紹介されてからわらじが巨大化した。

5．歌と踊り

現在，福島わらじまつりで使用されている曲は，「平成わらじ音頭」と「ダンシングそーだナイト」の2曲である。ともに作詞：茂木宏哉，作曲：古関裕而で，平成11年からレゲエ調とヒップホップ調に変更された。「わらじ踊り」は若鷺吉之輔に振り付けられた流し踊りを踊り，「ダンシングそーだナイト」は曲に合わせて各団体が自由に振り付けし，両者とも審査される。後者は平成10年まで「ピーチサンバ」（福島の名産“桃”と，県と親交の深いブラジルの祭りをイメージして）と呼ばれ，複数の曲をつなげて各団体が振り付けたダンスを競った。

6．第35回福島わらじまつり（平成16年8月6・7日）

修祓式（おはらい）でわらじを会場に奉納した後，わらじ踊り集団がコース（13号線信夫通り）内で踊った。ひき続き「ダンシングそーだナイト」がフィナーレまで繰り広げられた。2日目は小学生により子どもわらじ競争，女性の部・一般の部のわらじ競争の後，フィナーレまで「ダンシングそーだナイト」が展開された。町内会，企業，市会議員，高校生，大学生，ダンススクール等，56団体，3,879人が参加して，工夫をこらして会場を踊り歩いた。また，パセオ通りと文化通りの七夕祭りも同時に開催され，街中広場でも多くの催し物が実施された。

7．福島わらじまつりの今後の課題

神事にはじまり，夏祭りとしてにぎやかに展開される参加型の祭りで，イヴェント色が濃い。2曲が順に延々と流れる中，メディア関係中心の審査員による審査がなされる。マンネリ化しないためには，テーマを設けたり，郡上八幡の郡上祭りのように曲数を増やすなど，自由度の幅を広げたらよいのではないかと思われる。人口28万人の街に25万人の観光客が集まるのは地域おこしとして注目すべき現象である。産業の振興のみならず，文化の継承と創造，人々の交流ができる機会としてとらえたい。